

【相馬市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「相馬市教育振興基本計画2023」（計画期間：令和5年度～令和9年度）において、「ICTの活用による情報教育の充実と教職員の業務支援」のため、以下の施策を示している。

- ◇ICTリテラシーの向上の推進と情報モラル教育の充実
- ◇ICT機器の導入推進と活用
- ◇ICT支援員を活用した研修の充実
- ◇ICT活用チェックリストによる実態把握
- ◇統合型校務支援システムの運用支援

ICT活用を通じて「個別最適な学び」や「協働的な学び」を促進し、児童生徒が「自ら学び、自ら考える力」AI時代を生きぬ力を育む教育を進め、本市教育の基本理念である「地域づくりを支え、心豊かに力強く生き抜くひとづくり」の実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

本市では、国が進めるGIGAスクール構想事業等を活用し、令和2年度から令和4年度にかけ市内全小・中学校児童生徒に学習者用1人1台端末を整備し、学校現場のICT化を進めてきた。併せてICT支援員を配置し、教職員のICTスキル向上に取り組んできた。

また、国のリーディングDXスクール事業（1人1台端末とクラウド環境を活用した効果的な教育実践の創出・モデル化）指定校におけるICT活用の実践事例を授業公開するなどにより、教職員の指導力向上にも取り組んできた。

1人1台端末を活用した授業は日常的になりつつあるが、学校や教職員款でICTスキルや活用具合に多少の差が見受けられることから、市教委での情報共有や研修等の機会を設けるなどによりICT活用の促進を図る。

3. 1人1台端末の利活用方策

（1）1人1台端末の積極的活用

1人1台端末導入後、ICT支援員を活用した校内研修を継続し、教職員の指導力・授業力向上を図っていく。

（2）個別最適・協働的な学びの充実

令和5年度に全小中学校において導入した協働学習支援ツールの活用をより一層促進し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」が実現するよう環境を整備する。

（3）学びの保障

オンライン授業の実施等、1人1台端末の活用により学びの幅を広げ、様々な状況にある児童生徒に学習機会を確保する。また、当市では不登校児童生徒が増加傾向にあり重大かつ喫緊の課題となっているが、AIドリルの導入や、1人1台端末を活用した授業への参加・視聴に取り組んでおり、引き続き不登校児童生徒の学習機会を確保し、個別最適化された学びを実現する。

本市ではこれらの取組を推進するため、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していく。